

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	産業研究所
大項目	11 教員・教員組織
中項目	
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置 (院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント (FD) の実施状況と有効性

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。

A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究プロジェクトの構成は、研究員の所属が偏らないようにする。	→新規の研究プロジェクトの構成は、研究員の所属が3部局(学部・研究科)以上とする。	B	A	A		
2. 研究プロジェクトの構成は、本学教員に限らず、学外からも専門家を客員研究員として加える。	→新規の研究プロジェクトについては、客員研究員が2名以上加わる構成にする。	A	A	A		
3. EUIJ 関西事業の推進のために、EU研究者を教員として、産業研究所に配置する。	→2010年現在欠員のEUIJ 関西事業を推進する教員1名を2011年度に配置する。	C	A	A		
4. 学外機関や社会との連携を深めるため、産業研究所で研究活動を行う受託研究員・学外研究員を受け入れる。	→産業研究所で研究活動を行う受託研究員・学外研究員を毎年1名以上迎える。	D	C	C		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2011年度に発足した「公共インフラの整備と地域振興政策の推進」プロジェクトは、学内研究員の所属が経済学部3名、商学部1名、総合政策学部2名と3学部にまたがり、代表者は総合政策学部教員となっている。
目標2	2011年度に発足した「公共インフラの整備と地域振興政策の推進」プロジェクトは、学外等から9名迎えている。うち、5名は学外の大学教員、1名は調査研究機関、3名は大学のポスドクである。
☆ 目標3	2011年度の教員は、EU本部の元職員フランシス・ローリンソン氏を採用した。ただし、年齢の関係で1年間の任用である。
目標4	計画していた受託研究員受入が、東日本大震災で取り消された。
備考	